

令和5年度 教師の養成・採用・研修の一体的改革推進事業
教師不足をはじめとした教師の人材確保に関する近年の課題への対応
～「教師の魅力」発信の取組支援

教育委員会と大学協働による
「職業としての教師の魅力」発信
～埼玉県における取組から～

埼玉大学教育学部
令和6年3月8日

目次

はじめに

埼玉大学における教員の魅力発信の取組	教育学部長 堀田 香織	……1
--------------------	-------------	-----

I 大学入学前の取組と成果

1. 高校生オンライン連続講座	森 薫、小林 聡	……3
2. 高校生のための教員志望者説明会への参加 (埼玉県教育委員会との連携)	河野 裕一	……5

II 大学入学後の取組

清水 亮、河野 裕一、廣瀬 悠

1. 教職支援に係る学生への指導・説明会の開催	……7
① 単位外の教員養成カリキュラム「教職支援セミナー」	
② 「学校フィールド・スタディⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の紹介、運営、振り返り指導	
③ 埼玉県・さいたま市の教員採用説明会	
④ 埼玉県・さいたま市以外の自治体教員採用説明会	
⑤ 彩の国かがやき教師塾ベーシックコース説明会	
⑥ 彩の国かがやき教師塾マスターコース説明会	
⑦ 「さいたま市教師塾『夢』講座」説明会	
⑧ 都道府県別指導	
⑨ 埼玉県臨任教員登録説明会・さいたま市臨時的任用教職員希望者説明会	
⑩ さいたま市現職教員と埼玉大学生との交流会	
2. 進路希望調査について	清水 亮……13
3. 学校フィールド・スタディ	河野 裕一……14
4. 授業での取組	……16
① 教職入門Ⅰ	廣瀬 悠
② キャリア形成科目	廣瀬 悠

5. 教育実習等の振り返り	清水 亮、堀田 香織……………24
① 社会講座における教育実習の振り返り	清水 亮
② 心理・教育実践学専修心理系における教育実習の振り返り	萩生田伸子、中井 大介、堀田 香織

Ⅲ 本取組による成果(質的成果・量的成果)と今後の課題

1. 質的成果と課題	清水 亮……………31
2. 量的指標に基づく成果と今後の課題	堀田 香織、廣瀬 悠……………31

別添資料1……………	34
別添資料2……………	35
別添資料3……………	36

はじめに

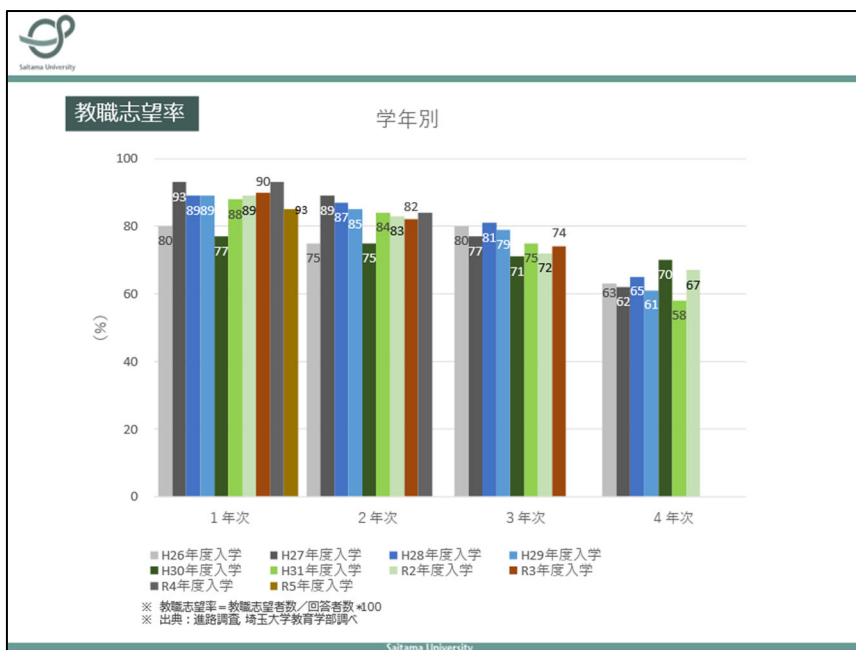
埼玉大学における教員の魅力発信の取組

教育学部長 堀田 香織

近年わが国ではいわゆる「教員不足」が深刻な問題となっていますが、首都圏に位置する埼玉県、さいたま市も例外ではありません。

埼玉県の国立大学法人埼玉大学は明治6年に埼玉県が改正局で教員養成を開始したことに起源を持ち、以来、約150年に渡り、教員養成を手掛けてきました。埼玉県・さいたま市教育委員会からも質の高い教員養成が求められてきましたが、近年埼玉大学教育学部の教員就職率は50%前後と低迷を続けています。埼玉大学が首都圏に位置しており、民間企業や公務員など多様な進路を学生が選択できること、埼玉県の私立大学でも教員養成が多く行われていることなどが背景にあります。埼玉県・さいたま市教育委員会からは、地元の国立大学として質の高い教員を輩出することが常に求められているものの、必ずしも十分にそうしたニーズに応えることができていないというのが現状です。

埼玉大学教育学部では教員就職率の低さの要因を分析しました(「進路希望調査」P13による)。下図のように、入学当初は学生の9割前後が教職志望であるのに対して、学年が進むにつれて、6, 7割に落ち込んでいます。一つには、教育学部が教員養成に特化した学部であることをうたってはいるものの、1年次4月に教職志望率10割ではないということ、また、9割前後教職志望であると答えているものの、実際のところ、それほど多くの新入生が教員になることを自己決定して入学しているわけではないのではないかということが考えられます。もう一つには、入学後に何らかの理由で教職を諦めてしまうことが挙げられます。入学後に教職志望を低下させる理由としては、教育実習をきっかけに、自分には教職がむいていない、



自信がないと考えてしまう例、大学での授業やサークル活動などの体験の中で教職に疑問を抱いてしまう例があり、「教育実習」と「大学での学修」という教職支援の両輪ともいえる取組が十分に機能してこなかったことが考えられました。また、入学後の様々な経験により、教職よりももっと自分に合った選択肢に出会う例なども見受けられました。

そこで、教育学部では教育実習の振り返りを行い、自信を失いがちな学生が自分たちの悩みを共有することで前進できるように後押しすること、教師の魅力を入学前から、入学後に渡って切れ目なく発信し続けることを考え、本事業による取組を開始しました。第1に、大学入学以前の高大連携により、教職志望の高い高校生を大学に迎え入れるということ、第2に、大学入学後、いかに教職志望の低下を防ぎ上昇に向けた取組ができるかということを目的とした取組です。

本成果報告書では、第1に、大学入学前の取組とその成果、第2に、大学入学後の取組とその成果、そして、第3に、取組全体の成果について、質的及び量的にまとめ、今後の課題を示します(各年度の取組は一連の流れになっているので、6月に採択される前の取組も記載しています)。

なお、埼玉大学では、教職志望の高い高校生を大学に迎え入れるということについて、令和7年度から「地域枠」推薦型入学試験により、埼玉県教員になることを強く志す高校生対象の特別入試の導入を決定していることも申し添えます。

I 大学入学前の取組と成果

1. 高校生オンライン連続講座

森 薫、小林 聡

① 総論

「力量ある質の高い教員」を育成するための方策の一つとして、教員としての潜在的資質のある高校生に、教員になろうという意識を高めてもらうためのアプローチが想定される。教員志望の高校生を増やすために、埼玉大学教育学部では「高校生オンライン連続講座」を令和3年度以降、毎年開催しており、令和5年度も終了している。講座の内容は、職業としての教師の魅力を論じたり、本学部のカリキュラムや教職大学院の教育内容を紹介したりするとともに、現役学生(教職大学院生も含む)や教職に就いている卒業生のインタビューも盛り込んだ多彩なものである。また、受講した高校生や立ち会った高校教員に ZOOM のチャット形式を使ったり、事後でアンケートを実施したりしてフィードバックに努め、講座内容の改善に役立てている。本講座は高校生や教員、また埼玉県やさいたま市の教育委員会からの評価も高いが、さらに調査研究を進めていくことによって、教員養成機関の「入口」のクオリティを高めることができると考える。

以下、本学部広報委員会からの報告をもとに述べる。

② 参加高校、受講人数

参加した高校生は全3回で延べ242名であった。参加した高校の数は全3回で22校であった。いずれも埼玉県内の高校である。

③ 各回の内容 (6月以降も動画で配信している)

◆第1回(5月15日)「教師という職業の魅力って何?」

学長から高校生へのメッセージの後、本学教員が「教師という職業選択」と題する講話をおこなった。また、参加している高校生が数名ずつブレイクアウトルームに入り、現在の教員志望度や抱えている疑問、不安について語り合った。最後に ZOOM のチャット機能を用いて質問を記入させ

教師を目指すみなさんへ

2023年度 参加費無料
高校生オンライン連続講座

主催 埼玉大学教育学部

教師という職業はなぜ大事? やりがいは?
どうすれば教師になれるの?
埼玉大学では何を学べるの?

埼玉大学教育学部の
教員・学生・大学院生がお話しします
学年を問わずみなさんの参加をお待ちします!

毎回みなさんからの質問に
お答えしながら進めます!
質問フォームはこちら→

第1回 5月15日(月)
教師という職業の魅力って何?
◆教師という職業選択 ◆参加者どうしの懸念や質疑
◆これから教員になる4年生からのメッセージ

第2回 5月29日(月)
教師への道
◆大学入学から教職に就くまで ◆教育学部で学ぶ学生の話
◆教職大学院とは? 院生の話

第3回 6月12日(月)
埼玉大学教育学部をもっと知ろう!
◆埼玉大学教育学部の講座紹介 ◆教育学部の授業体験

予定講座 各回とも、16時40分～17時30分(50分間)
※詳細は変更されることがあります
参加申込み 事前申込制(次頁以降参照)。参加費無料
受講方法 Zoomによるオンライン講座です。
PCから接続してください。
受講証の交付 全3回受講した人には、後日受講証をお送りします。

問合せ先: 各高校担当の先生にお問い合わせください。

た。

◆第2回(5月29日)「教師への道」

前回の終わりに高校生からなされた質問に答える Q&A コーナーを設け、本学教員が「大学入学から教職に就くまで」、「教職大学院とは？」について説明をおこなった。さらに、教育学部と教職大学院で学ぶ学生に、リアルな学生生活を語ってもらった。第2回でも、終了時にチャットを用いて質問を受け付けた。

◆第3回(6月12日)「埼玉大学教育学部をもっと知ろう！」

Q&A コーナーの後、本学部のいくつかの講座・分野がブレイクアウトルームを設定し、高校生と教員・在学生とのトークタイムを行った。高校生からは、入学試験、授業内容、部活動等のキャンパスライフ、卒業後のキャリア等、多岐にわたる質問があり、教員や在学生がそれに答えるかたちで対話を行った。なお、全3回の講座を受講した高校生には、受講証明書を授与している。

※関連動画の配信……各回の一部を抜粋・編集して、本学部の Web オープンキャンパスにおける企画の1つとして配信している。

④ 参加者アンケートの結果

令和5年度の第3回終了時のアンケートには、高校生62名、高校教員8名からの回答があった。参加者の学年分布は、1年生47%、2年生31%、3年生23%であった。教員志望度については「とてもある」65%、「少しある」31%、「あまりない」5%であり、すでに教員になりたいと考えている高校生が多くを占めていた。なお、本学部の志望度については、「第1志望」40%、「志望」16%、「検討中」22%であった。内容についての自由記述による感想としては、教職のイメージが具体的に持てたこと、現役の学生・院生や教員の話を聞いたことや直接話せたこと、免許・資格の取得までの道のりがわかったことについて、高く評価するコメントが多くみられた。特に、第3回の各講座・分野に分かれて行ったブレ

さあ、当日だ！

参加方法 [当日の URL]

第1回 5/15(月) 16:40~17:30

教師という職業の魅力って何？

・教師という職業選択
・参加者どうしの懸念や質疑
・これから教員になる4年生からのメッセージ

第1回では、ブレイクアウトセッションを予定しております。1つのアカウントを1人としてブレイクアウトルームへランダムに振り分けられます。1つのアカウントに対して、複数人で参加する際は、主に話をする人を決めておいてください。

ZOOM アドレス

Zoomでの開催となります。開始時間5分前に入室にお待ち下さい。
下記URLもしくは、右のQRコードよりアクセスしてください。

<https://us06web.zoom.us/j/89836356726?pwd=aUJtTWc3WjBlLd0FHhNmpLZkYjWjRlU09>

ミーティングID: 898 3635 6726 パスコード: 783755

なかなか？

第2回 5/29(月) 16:40~17:30

教師への道

・大学入学から教職に就くまで
・教育学部で学ぶ学生の話
・教職大学院とは？院生の話

第2回では、講義等が中心となるので、特に注意事項等はありません。

ZOOM アドレス

Zoomでの開催となります。開始時間5分前に入室にお待ち下さい。
下記URLもしくは、右のQRコードよりアクセスしてください。

<https://us06web.zoom.us/j/83564609091?pwd=ZEp5NXJlRkpHMQ0yTmZlWjRlU09>

ミーティングID: 835 6460 9091 パスコード: 367148

目指すぞー！

第3回 6/12(月) 16:40~17:30

埼玉大学教育学部を知ろう！

・埼玉大学教育学部の講座紹介
・教育学部の授業体験

第3回では、ブレイクアウトルームを複数用意し、埼玉大学教育学部の各講座を紹介をします。
各ブレイクアウトルームは出入り自由ですので、興味のある講座を色々まわってみてください。
1つのアカウントに対して、複数人数で参加する際は、話し合ってから決めるか、アカウントを分けてご参加ください。

ZOOM アドレス

Zoomでの開催となります。開始時間5分前に入室にお待ち下さい。
下記URLもしくは、右のQRコードよりアクセスしてください。

<https://us06web.zoom.us/j/85062866140?pwd=S2NaeXB2SXhKd1lWVGIESXpR2dU09>

ミーティングID: 850 6286 6140 パスコード: 354838

オー！

Saitama University

イクアウトルームでのトークが印象的であったようである。

⑤ 今後の展開予定

2024 年度は全 2 回構成に変更し、内容を精選して開催する予定である。また、受講対象者を埼玉県内の高校から全国に広げることも構想している。これは、地方から本学に入学し、埼玉県内で教員として採用される学生が少なからずいるため、より幅広い対象にアプローチする必要性が見いだされたためである。さらに、教職に対する漠然とした憧れとともに不安や疑問を抱えている、いわばライト層にもリーチし、教職ならびに埼玉大学教育学部への関心を高めてもらえるために広報活動を進めている。

2. 高校生のための教員志望者説明会への参加（埼玉県教育委員会との連携）

河野 裕一

埼玉県教育委員会が主催する高校生対象の教職に関する説明会に該当高校を卒業した学生を派遣し、学生は教職を目指した動機や大学での学びなどの体験談を語るようにしている。主な内容は以下のとおりである。

- (1) なぜ、教員になろうと思ったのか。教員の魅力は何だと思うか。
- (2) 一般学部ではなく、教員養成学部を選んだのは何故か。
- (3) 教員免許は、何を取得予定か。
- (4) 大学で力を入れて取り組んでいること。
- (5) (4 年生限定) 採用試験を受けてみて、どうだったか。(大変だったこと、手ごたえ、感想など)
- (6) 教員を目指す高校生にアドバイス(やって良かった方がよいことなど)やメッセージ



【説明会への参加】



【説明会後の質問に答える様子】

令和 4 年度は 15 校に 16 名を派遣し、令和 5 年度は 22 校に 22 人を派遣した。説明会後には多くの高校生から、具体的な学生生活や習得できる免許状などの質問が本学の学生に寄せられるなど関心の高さが伺えた。本学の学生や高校生にとっての効果は以下のものが考えられる。

＜本学の学生＞

- ・派遣された学生にとっては、後輩に自身の思いを伝えることで教職への意欲をさらに高めることにつながっている。

＜高校生＞

- ・教職に関心のある高校生にとっては、身近な先輩の話を直接聞くことで、今後の学びや進路に見通しをもてるようになっている。

＜埼玉県教育委員会＞

- ・主催者である教育委員会は、身近な先輩が参加することにより、説明内容により説得力が増す効果が期待できる。

＜実施する高校＞

- ・受入校にとっては、卒業生の成長を実感することにつながっている。

＜参加した学生の感想＞

- ・母校を訪問できる嬉しい思いで参加しましたが、高校生たちの教職や大学生活への関心の高さに驚きました。説明会の中で「なぜ、教員になろうと思ったのか。」を話しましたが、誰かに伝えることで、改めて自身の志願理由が明確になった気がします。お世話になった先生にもお会いすることができ、充実した時間を過ごすことができました。

Ⅱ 大学入学後の取組

清水 亮、河野 裕一、廣瀬 悠

1. 教職支援に係る学生への指導・説明会の開催

2023 年度においては、別添資料 1（P34）のとおり、教職支援に係る学生への一斉指導・説明会を 32 回実施した（本報告書提出後に 1 回実施予定）。内容は多岐にわたるが、おおむね以下に大別できる。

①単位外の教員養成カリキュラム「教職支援セミナー」

経験豊富な実務家教員や教職指導員が教員採用試験合格のための支援のみならず、教員としての職務を円滑に進めることができる能力や教員としての見方、考え方等の資質能力の育成など多岐にわたる支援を行っている。具体的には、一斉指導、クラス別学習、個別相談などがある。

ア. 一斉指導

各学年に対して繰り返し実施した一斉指導・説明会。これは全学年に対して行う指導・説明会であり、おもに 1・2 年生に対しては教職の魅力を伝えることを主目的としている。そして、3・4 年生、大学院生に対しては教員採用試験に向けての心構えや対策方法、大学推薦情報、教職支援委員会編『教員採用試験ハンドブック』の活用方法等を伝えることを主目的としている。教職の魅力発信、教員採用試験対策ともに、本学卒業生の現職教員や教員採用試験に合格した教職大学院生からビデオメッセージ等を得て、年齢の近い先輩の取り組みを実際に知ってもらう取り組みを実施している。

ただし、2023 年度からは、教員採用試験の前倒し傾向に対応して、3・4 年生、大学院生向けの内容に 2 年生の参加も可とし、教職に対するより深い理解、教員採用試験に向けての高い意識や情報を早くから得て、学生自身が教員を自身の進路とする手助けを展開・深化させるように方針を若干変えた。

主な内容は以下のとおりである。

期日	対象	主な内容
4 月 6 日	4 年生・院生	前期教職支援セミナーについて、教職に関する授業等について、先輩教員からのメッセージ等
4 月 7 日	3 年生	3 年生の学びについて、県・市の事業について等
5 月 10 日	4 年生・院生	教員採用試験に向けた情報提供（主に教育時事について）
6 月 2 日	2 年生	今後の教職委支援について、教師の魅力について先輩教師からのメッセージ等
6 月 16 日	4 年生・院生	教員採用試験に向けた情報提供（主に教育時事と 2 次試験について）
6 月 30 日	3 年生	教育実習を振り返って、教師の魅力について先輩教師からのメッセージ、後期の教職支援について等
7 月 14 日	4 年生・院生	教員採用試験に向けた情報提供（主に 2 次試験について）
9 月 26 日	4 年生・院生	教員採用試験の総括、後期の教職支援について等

9月26日	3年生・院生	後期教職支援セミナーについて、教職に関する授業等について、教員採用試験の動向について、
9月27日	2年生	教師を目指すにあたっての講話、今後の教職支援（主に必修面談）について等
11月10日	1年生	教師の魅力についての講話、今後の教職支援（主に必修面談）について等
2月6日	3年生	教員採用試験に向けた取組について、来年度の教職支援について、大学推薦について等
2月6日	2年生	教員採用試験早期実施に向けた取組について

3年生・院1年生対象の教職に関する一斉指導

3年生の中には、教職を目指す人はもちろん、教壇に就こうかどうか迷っている人など様々な人がいると思います。
まずは参加して、道路を考える機会としてください。

《日時・場所》6月30日(金)16:20～17:20
オンライン(Zoom)にて実施

《内 容》①今後の教職支援について
②先輩教員から(部活の)能力について
③教育実習を振り返って
④教員採用選考試験に関する情報提供 など

教職支援委員会【問い合わせ：教職支援室(048-858-9018)】

1年生対象 一斉指導

《日時・方法》11月10日(金)16:20～17:15
Zoom オンライン(招待メールは後日送付)

《内容》
・教師の魅力について
・今後の教職支援について
・さいたま市チャレンジスクールについて

教職を目指す人はもちろん、教職に就こうかどうか迷っているなど、様々な人がいると思います。
まずは参加して、道路を考える機会としてください。

教職支援委員会【問い合わせ：教職支援室(048-858-9018)】

イ. クラス別学習

教採を受験する校種ごとにクラスを分け、その校種に応じた指導を行っている。教職指導員による講義や学生同士のグループワークを実施することで、教員採用試験への対策だけではなく、教職の魅力を伝えたり、教師としての資質・能力を育んだりすることができるようにしている。学生の感想からもその様子がうかがえる。



【受講した学生の感想より】

学生 A	教員採用試験に合格するためだけではなく、その後教員としてどうあるべきかということを考えることが大切だと強く感じた。校種や自治体が違ったり、自分には課されない内容であったりしても、教員として何が大切かということは共通するものがあり、自分だったらどうするだろうということを考えるよい機会になった。ここでの学習を踏まえ、教採への学びを深めていきたい。そして試験が終わった後でもよりよい教員になれるよう常に学び続けたいと思った。
学生 B	先生の話し方など内容が簡潔で声も大きく、聞きやすく、私も現場に出て教壇に

	立った際にそのように振る舞えるように努めたいと思った。
学生 C	毎回の授業で、新聞の切り抜きやニュースの内容を扱ってくれるのがとても勉強になりました。自分 1 人では収集しきれない情報や、同じ問題に対する複数の人の意見を聞くことができ、教職だけでなく社会への興味関心も高まりました。
学生 D	自分が教師になるため、教師になった際に必要なことについて、他の学生との話し合いなどを通して深く考えることが出来るとも充実した授業だった。
学生 E	学生同士で話す機会が多く設けられていたため、同じ夢を目指す仲間との交流も多くあってモチベーションが上がった。次回やることなどが明確にわかることで、また次も来ようと思った。
学生 F	このセミナーの中で、保育の就職に関しての情報提供をして下さり、自分の進路を考える幅が広がった。また、保育そのものに関しての情報も下さり、保育士をしたいという意識も保つことが出来た。

ウ. 個別相談

進路についての相談や教員採用試験のための志願書や論文の書き方、面接の受け方等について教職指導員等の指導を受けることができる。

学生からは「自己肯定感や自信につながる言葉がけを多くいただいた。」「自分にはない視点を教えてもらうことで成長できた。」「改善点を的確に示しつつ、自分のモチベーションが下がらないよう積極的に褒めてくださった。」などといった感想が聞かれた。



エ. 必修面談

1・2 年生を対象とした面談で、すべての学生が実施し、現段階で自分自身のキャリアをどのように考えているのかを聞きながら面談を進めている。中には教職について不安をもつ学生もいることから、経験豊富な教職指導員が現場の様子をもとに教職の魅力を伝えることで、一人でも多くの学生が教職を目指すようにしている。2022 年度までは 2 年生のみが対象であったが、早い段階から教職への見通しがもてるようにと考え、2023 年度からは 1 年生にまで対象を広げた。

② 「学校フィールド・スタディ I・II・III」の紹介、運営、振り返り指導

教育実習とは別に、学校現場にて教員業務を体験する科目「学校フィールド・スタディ I・II・III」の紹介、運営、振り返り指導を実施した。

教職の魅力に触れながら、教員としての資質・能力を育成していくには、教室などの具体的な状況の中で実践的な思考様式を養う「参加的・実践的学習」と、大学での専門性を生かした「学問的・文化的探求」の往還運動を通じて形成される。「学校フィールド・スタディ I・II・III」は、この「参加的・実践

的学習」の一環としてカリキュラムに位置付けている。

③埼玉県・さいたま市の教員採用説明会

各教育委員会と連携し、説明会を実施している。

・10月30日：さいたま市教員採用説明会

出席者 101名

さいたま市教育委員会より教職員人事課主任管理主事、高校教育課主席管理主事が来校。

・11月1日：埼玉県教育委員会教員採用説明会

出席者 131名

埼玉県教育委員会より教育長、市町村支援部教職員採用課管理主事が来校。

なお、2022年度までは3・4年生、大学院生を参加対象としていたが、教員採用試験の早期化に対応するため、1・2年生の参加を可とした。当日は2年生も多数出席したことが確認できた。

埼玉県 教員採用説明会の案内

教員採用試験合格に向けては、早め早めに正確な情報を収集していくことが大変重要です。

◇ 期 日 11月1日(水) 16:20~17:50

◇ 場 所 C1教室

◇ 対 象 来年度、埼玉県の教員採用試験を受けることを考えている者
※参観までに、情報を入手したい者も参加できます(1年生等も可)

◇ 内 容 埼玉県教員採用に関する様々な情報
(埼玉県教育委員会教職員採用課による説明、質疑・応答 等)

教職支援委員会【問い合わせ：教職支援室(048-858-9018)】



④埼玉県・さいたま市以外の自治体教員採用説明会

各自治体からの申し出を得て、そのつどオンラインで実施するものである。教職支援室が主催し、教職支援委員会副委員長が司会を務めた。今年度の参加学生は茨城県2名、東京都27名、千葉県・千葉市16名、京都市1名、岡山市1名、長野県6名、岩手県1名であった。東京圏、および大宮から本学につながる北関東・東北・信越の自治体における教員就職に関心が高い本学学生の傾向をあらためて確認できた。

⑤彩の国かがやき教師塾ベーシックコース説明会

埼玉県教育委員会が主に2年生を対象にした学校体験ボランティア事業で、学校現場を体験的に学ぶことができる。応募に際しては、かがやき教師塾ベーシックコース説明会を開催し、埼玉県教育委員会の担当課から管理主事を招いて学生への周知を図り、2023年度は34名が参加した。なお、本学の科目「学校フィールド・スタディ」との単位互換が可能である。

⑥彩の国かがやき教師塾マスターコース説明会

埼玉県教育委員会が3年生を対象にした教員養成プログラムである。教育委員会の実施する選考試験に合格し、マスターコース生となった学生は講演、講義、演習や社会体験活動に参加したり、学校体験実習に取り組んだりする。学内ではベーシックコース同様、埼玉県教育委員会の担当課から管理主事を招いて説明会を開催した後、学内選考を行う。学内選考に合格した学生は、教育委員会の選考試験に向けて互いに切磋琢磨することで、教職への思いを強くしたり、目指す教師像が明確になったり

していった。2023 年度は 12 名（小学校 11 名、中学校 1 名）がマスターコース生となった。

⑦「さいたま市教師塾『夢』講座」説明会。

「さいたま市教師塾『夢』講座」は、さいたま市教育委員会が主催する 3 年生後期から 4 年生前期に至る学修プログラムであり、修了者の多くはさいたま市教員採用試験一次試験の免除対象者となる。


本学で行われた、さいたま市教育委員会の担当課の指導主事による説明会には 32 名の参加があった。その後入塾試験を経て、2023 年度は 22 名（小学校 14 名、中・高 7 名、特別支援 1 名）が合格。『夢』講座生として教師としての専門性や実践的指導力を身に付けていった。

さいたま市教師塾 「夢」講座説明会 開催のお知らせ

3 年生、院生の皆さんへ

さいたま市立小・中・高等・特別支援学校の教諭を強く志望する大学 3 年生、院生 が対象の「夢」講座 6 期生募集に向けた説明会を開催します。市教委の担当者から話を聞ける貴重な機会です。（2 年生も説明を聞くことは可能です。）

令和 5 年 4 月 28 日（金）
16:20～17:50
教育学部 A214
※スーツで参加しましょう。



⑧都道府県別指導

埼玉県・さいたま市、その他各自治体における教員採用試験合格者が自身の取組や各自治体の試験の特徴等を 3 年生以下の学生に伝える取組である。大学 4 年生、教職大学院生は、自身が合格した自治体の目指す教師像を改めて確認する機会に、3 年生以下の学生にとっては試験に向けた具体的な取組をイメージできる機会となっている。また、特に埼玉県、さいたま市以外の学生にとっては、卒業後のつながりをつくる場となっている。

3 年生対象 一斉指導（第 4 回） 都道府県別指導

《 日 時 》
・埼 玉 県：令和 5 年 12 月 4 日（月）16:20～17:20
・さいたま市：令和 5 年 12 月 5 日（火）16:20～17:20
・東京都・その他（〇〇県（小）・〇〇県（中）・〇〇県（小））※調整中
：令和 5 年 12 月 6 日（水）16:20～17:20

《 場 所 》 教育 A 棟 214 室等
《 対 象 》 3 年生、院生
《 申込み 》 参加希望者は、11 月 30 日（木）までに事前に送付した URL、左下の QR コードにて回答をしてください。

合格した 4 年生から
・試験の内容や特徴
・勉強方法 など
を直接聞いて、教職への意欲を高めましょう！
※複数の自治体の指導日に参加可能です。

教職支援委員会
問合せ：教職支援室（教育 C 棟 2 階）
048-858-9018





⑨埼玉県臨任教員登録説明会・さいたま市臨時的任用教職員希望者説明会

次年度の臨時的任用教員に登録する学生・院生のための説明会である。埼玉県・さいたま市の教育委員会の担当管理主事等を招き、その場で相談や面接を行うことで、学生にとっては不安を解消することになり、教育委員会にとってはスムーズな手続きを進めることができる。本学としては、各学年の最終年度で採用に至った者のみが優れた教員になるわけではないことを伝え、「質の高い優れた教員」として活躍するキャリアとして臨時的任用教員としての経験を活かす支援をしている。

埼玉県 臨任教員登録 説明会の案内

4月から臨時的任用教員として学校に勤務することで、採用試験合格に向けて、教師としての実践力とともに、学校現場の実際として様々なことが学べます。

◇ 期 日 10月24日(火) 16:20~17:50

◇ 場 所 【説明会】A214教室
【事前申請者に対する面接】控室：教育学部A214教室
※勤務希望地区ごとに面接を行い、その場で臨時的任用の登録をすることができます。
※事前に電子申請が必要となります。詳細はメールで連絡します。

◇ 対 象 来年度、埼玉県公立小・中学校、県立学校（高等学校・特別支援学校）の臨時的任用教員の登録を希望する者
※参考までに、情報を入手したい者も参加できます。

◇ 内 容 仕事の内容、県内勤務希望地区（南部・西部・北部・東部・県立）ごとの詳細な説明、その場での登録、質疑・応答 等

教職支援委員会【問い合わせ：教職支援室(048-858-9018)】

⑩さいたま市現職教員と埼玉大学生との交流会

これは、特にさいたま市の教員採用試験に合格した4年生に、職務への不安やよくわからないことを、現職教員とのフランクな対談によって解消し、就職に臨んでもらうこと、2・3年生にはさいたま市の教員生活を早くから知ってもらうことを目的とした会である。やはり、教員採用試験の前倒し傾向に対応して、2023年度から1年生も参加を可とした。第1回を令和5年12月13日に開催。本学からは21名の学生が、さいたま市からは7名の現職教員が参加をした。

**令和5年度
さいたま市現職教員と埼玉大学生との交流会**

交流会を下記のとおり開催します。
さいたま市の教員になりたい方は、ぜひ参加しましょう！

4年生・院生はもちろん、2年生、3年生でも参加可能です。
さいたま市で実際に働いている埼玉大学の先輩方から、いろいろな話が聞けます。
情報を入手できる貴重な機会としてください。

記 **お申し込みは必ず事前に、和やかに。**

◇ 期 日 12月13日(水) 18:00~19:20
◇ 場 所 Zoom（招待メールは後日送付）
◇ 内 容 教員の仕事、学級経営や授業などを座談会形式で行う。
◆ 申込み 参加希望者は直下のURLまたはQRコードから申し込んでください。

<https://forms.office.com/r/9u1161f82695>

教育実践総合センター 廣瀬 悠
問合せ：教職支援室（教育C棟2階）
048-858-9018

【参加した学生の感想より】

学生 A	大学四年生として、教員になることが確定した状態で zoom に参加しました。先生が楽しく話していたので教員になることに安心感を持つことができました。 「1人で抱え込まない」ということがアドバイスの1つとしてあったが、このような話し合う会の中で新しいつながりを持つことが教員の仕事が重要だと感じた。来年度から教員として頑張りたい。
学生 B	教員になる気持ちは固まっていなかったのでお話を伺いたく参加しました。 色々なお話を聞いて教員の解像度が上がりました。ありがとうございました。
学生 C	現職ではたらいっている先生方の貴重な話を聞くことができとても良かった。教員になる上で不安なこともあったが、楽しそうな感じでお話しされていたので、少し不安が和らいだ。また、働いているからこそ、より具体的な解決策や大変なことを知れたのでとても勉強になった。

以上、①～⑩の試みについて、主に別添資料 1（P 34）に基づき 2023 年度の実践を紹介してきた。これらの取り組みにおける最大の特質は、特に 1 年生・2 年生といった大学の低学年層への働きかけを強化したことにある。その効果は、来年度の学校フィールド・スタディ、彩の国さいたま教師塾ベーシックコース・マスターコース、さいたま市教師塾「夢」講座への履修者・応募者数などによって確認できることが予想される。

また、これらの取り組みを実現させるにあたって、埼玉県教育委員会・さいたま市教育委員会との連携が大きな要素を占めていることも述べておきたい。④、⑥、⑦、⑨は、県・市から局員の方をお招きして説明会での講師等をお願いしている。また、②は本学の科目であるが、埼玉県教育委員会・さいたま市教育委員会との連携によって受け入れ校を決定している。

さらに、東京圏にあり、かつ大宮を起点として信越・北陸・北関東・東北につながっている本学の特質にも目配りして、教員採用説明会・都道府県別指導を実施している。

2. 進路希望調査について

清水 亮

本学部では、各学年で進路希望調査を実施し、教職を中心とした各職種への進路希望を確認している。当然であるが、教職については学校種、教科などを綿密に分けて学生の意識を確認している。2022 年度には進路希望調査のアンケート内容を見直し、従前の調査と齟齬を来さないように工夫して進路希望調査をリニューアルし、2023 年度から運用を始めた（別添資料 2、P35）。それと連動して、学生全員に対して個別面談を行い、教員就職希望の有無にかかわらず将来の進路希望や学修・課外活動など全般にわたって話を聞き、アドバイスを行う必修面談・個別面談を拡充した。

2022 年度まで、必修面談・個別面談は大学生生活に慣れ、かつ教職への希望が相対化される 2 年生段階で実施していたが、2023 年度からは 1 年生も面談の対象とすることで教職への意識付け・理解の深化を計るとともに、学生が大学生活を円滑に送る手助けとしての機能を高めることを目指した。

なお、2022 年度卒業生については、1・2 年生から 3 年生に移行する段階で有意に教職への希望が下がっている。この点については、当該年度卒業生が 2 年生・3 年生段階で教員という職業に対する具体的なイメージを持てなくなったことが大きな要因の一つではないか、という見通しを持っている。すなわち、2020 年度（2 年生）の段階で介護等体験・学校フィールド・スタディの実施を制限され、2021 年度（3 年生）においても教育実習を制限されるなど、教員・社会人として実際に活動する機会を最も奪われたのが当該年度卒業生であった。

この見通しの当否は、今後確かめていくことになるが、2023 年度から教員採用試験の前倒し傾向が明確になったことで学生の教職への指向が高まる可能性は否定できない。これまで述べてきたとおり、本学でもその傾向に対応して 1 年生・2 年生段階からの指導・情報提供を強化している。これらの取り組みが、来年度以降の進路希望調査にどのように反映されるかを注視していきたい。

3. 学校フィールド・スタディ

河野 裕一

本授業は大学と学校現場との学びを往還的につなぎ、教職の魅力に触れながら、教員としての資質・能力を育成することを目的とした「参加的・実践的学習」としてカリキュラムに位置付けている。現場経験の少ない学生が、実際に児童・生徒と接したり、教師の仕事を体験したりすることで、教職に対する理解を深めることにつながっている。科目名は「学校フィールド・スタディⅠ・Ⅱ・Ⅲ」となっており、Ⅰは1回目、Ⅱは2回目と複数年の受講を可としている。

令和5年度はさいたま市をはじめ県内25の市町と6つの県立学校、各附属学校園の協力のもと、130名の学生が小・中・高等学校・特別支援学校・幼稚園で活動した。

また、埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会とも連携し、活動前の事前授業や、活動後の振り返り授業に指導主事等を招聘し、講義を行っている。ここでは、活動時に学ぶべきことはもちろんのこと、受け入れる学校の思いや、学生のうちに学ぶべきことなど、多岐にわたった内容で、学生にとっては価値のある学びとなっている。

活動後の振り返り授業では、学生同士で協議を行い、活動中に経験したことを共有している。

グループ協議を通して、自身の悩みや不安を解消したり、教職の魅力を改めて実感したりする学生が多く、今後の学びや、生活に生かしていこうという振り返りが多く見られる。

R5「学校フィールド・スタディⅠ・Ⅱ・Ⅲ」
振り返り授業①（通年）

「学校フィールド・スタディⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を受講した人は、必ず出席してね。

「学校フィールド・スタディⅠ・Ⅱ・Ⅲ」の振り返り授業①（通年）を下記のとおり開催します。

記

◇ 期 日 **10月27日（金）16:20～17:50**
 ◇ 場 所 教育学部 A棟214教室 他
 ◇ 内 容 特別講話「学生の時に学んでおくこと」
 ～今、求められる教師像～（予定）
 さいたま市教育委員会 指導1課 主任指導主事
 グループ協議（これまでの活動を振り返って） 等

※ 予備日 10月20日（木）16:20～17:50（A214教室）

教職支援委員会（問い合わせ：教職支援室）



【指導主事による講義】






【振り返り授業の様子】

<振り返り授業後の学生の感想より>・

学生 A	グループワークを通して、子供との接し方を試行錯誤しているのは自分だけではないということがわかってよかった。様々な事例を共有する中で、自分だったらどうするかと考えたり、その学校での具体的な対応策が聞けたりしたので、今後の活動に生かしていきたい。
学生 B	教育委員会の先生による講義では、様々な経験をする必要があるということが印象に残った。様々な経験をしていると授業中の何気ない単語から話を広げられたり、子供たちの興味を引き出す話ができたりと思う。また、様々な経験は様々

	な感情も味わうことになるはずで、人の気持ちを想像する広さが違うと思う。残りの学生生活では、様々なところに行き、多くの人と関わり、多様な経験をして豊かな人間になりたいと思った。
--	---

<学校フィールド・スタディ全体について学生（各学年）の感想より>

学生 A (4 年)	<p>学校フィールド・スタディの活動を通して、多くの先生方の授業の展開の仕方や、学級経営等を学ぶことができました。これらの学びを通して、自身の目指す教師像の実現のために、学んだことを活用するとともに、現場に立ち、子どもたちへの理解を深め、私自身なりの教育実践の方法の画策に取り組んでいきたいと思っています。</p> 
学生 B (3 年)	<p>教育実習校以外の学校に携わることができたため、学校ごとの雰囲気の違いを感じることができた。また、志望している特別支援級に携わることができ、自分の力不足を感じるとともに教職に就いた際のイメージをつくることができた。何よりも、半年以上という長期間に渡って学校教育に携わることができたため、子どもの成長を感じることができた。</p> 
学生 C (2 年)	<p>初めて学校現場の様子を教師の視点でみて、大学の講義だけではわからないことがたくさん学べました。特に私は様々な文化や言語を理解することが大切だと思うことに繋がったと考えます。また、子どもの心理を知っていることや授業の目的を理解したうえで実践することが教育の場面で重要だと感じたので、大学の講義で自ら考えることを心掛け、実習や模擬授業などで実践することに繋がりたいと思います。</p> 

学年によって活動に対するとらえ方が異なることがわかる。初めての学校現場、教育実習や教員採用試験を経験済みといった自身のキャリアにより、活動への意識が異なることから、本授業を複数年受講できるようにしている価値があるといえる。

4. 授業での取組

①教職入門Ⅰ

廣瀬 悠

教職入門Ⅰは、教育学部 1 年次の全学生を対象とした授業で、「教職専門科目」に属し必修の授業である。教育職員免許状を授与されるために単位修得が必要な省令科目等である「教育の基礎的理解に関する科目」の科目内容である「教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）」を「教職入門Ⅱ」とともに担っている。また、本科目を通して教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等についての基礎・基本を身につけ、教職への意欲を高めることを目標としている。

実施体制は、実務家教員 6 名及び現職教員等のゲストティーチャーによるオムニバス形式。授業内容については表 1 の通りである。

回	実施日	内容	備考
第 1 回	4 月 18 日	オリエンテーション	
第 2 回	4 月 25 日	大学と出会う	
第 3 回	5 月 2 日	教職の意義と役割	
第 4 回	5 月 9 日	家庭（保護者）との連携	実務家教員によるオムニバス
第 5 回	5 月 16 日	「価値のランキング」から学ぶ	実務家教員によるオムニバス
第 6 回	5 月 23 日	学級（学びの場）	実務家教員によるオムニバス
第 7 回	5 月 30 日	教職をめぐる課題	実務家教員によるオムニバス
第 8 回	6 月 6 日	子ども理解	実務家教員によるオムニバス
第 9 回	6 月 13 日	インクルーシブ教育入門	実務家教員によるオムニバス
第 10 回	6 月 20 日	これまでの振り返り	
第 11 回	6 月 27 日	安全確保と救急救命	GT：元さいたま市教育長
第 12 回	7 月 4 日	現職教員から学ぶ	GT；現職教員、現職院生
第 13 回	7 月 11 日	教職を目指す生活設計	実務家 3 名による 3 クラス合同実施
第 14 回	7 月 18 日	理想の教師像	
第 15 回	7 月 25 日	これまでの総まとめ	
	9 月下旬	学校参観	希望者のみ参加

【表 1】教職入門Ⅰ実施計画

第 11 回には元さいたま市教育長、現日本 AED 財団理事、桐淵博氏による自動体外式除細動器（AED）を活用した救命のマニュアル「A S U K A モデル」について、第 12 回では現職教員や現職院生により教職の魅力ややりがいについての授業を行った。

本科目では、一枚ポートフォリオ評価（OPPA：One Page Portfolio Assessment）に基づく OPP シートを全履修生が使用し、15 回の授業を通して「学校教育とは何か」という問いを通して教職に

ついて考えを深めるとともに、自己評価をとおして自身の変容を見取れる取組を行った。表 2 では、本科目を通して学生自身が 15 回の授業をとおして自己評価し自らの変化について振り返ったものを掲載する。

学生 A	この講義を受ける前は教師についてブラックだなあ、大変そうだなあ、などのネガティブな印象のほうが多かったが、講義が進むにつれて、たとえ大変だったとしてもその分やりがいの多い仕事だなあと感じた。また、授業をわかりやすくして子供たちの知識の育成のためにやるだけだと思っていたが、授業から学級づくりや人間関係、人格の形成につなげることの大切さを知った。
学生 B	学修前と今では、教育に対する考え方がまるっきり違うものになっていると感じました。子供に対して勉強を教えることがあくまでメインであって、ほかはサブ的な要素であったと思っていたが、今ではそのような考え方は一切なく、第一に子供の人格であったり、個性を伸ばしてあげたりすることが一番重要だと感じました。確かに勉強を教えることも大事なことだが、それ以上に大事なことをたくさん知ることができたかなと思います。
学生 C	この授業を通して学校教育は教員だけでも、保護者だけでも、地域だけでもそれぞれ単体が動いて行うことはできず、それぞれが役割分担して、補い合い、連携して行う必要があることを学んだ。そして、関わる全ての人の子どもの成長を第一に考えて子どもが、安全に、できる限りの不自由なく生活できるように働いていることも分かった。理想はこのように分担して補い合うような形であるが、学校教育では一番前線で子どもと接する機会のある教員の負担が大きくなりすぎているようにも感じた。学習前は子どもがどのようなことを学ぶか考えているが、それに加えて、またはそれを達成するために連携した学校教育が提供されると良いと考えた。
学生 D	学修前は、教師は一方的に子どもたちに知識や決まりなどを教える職業だと持っていた。中盤になるにつれ、教師と子ども、教師と保護者、教師と地域の相互的なやり取りによって学校運営がされていることに気づいた。 学修後の今は、教師とは子どもたちの反応や子どもたちの様子から情報を汲み取り、そこからどうすればよいのかを考え、さらに子どもとの教育活動を進めていくことで、子どもの人格を完成させていく職業であると考ええるようになった。
学生 E	学修前、教員の仕事は授業をすること、勉強を教えることがメインでそのほかに生活上の指導などが合わさってくるという感覚だった。学修をとおして学習面と同じくらい生徒指導が大切を実感した。教員という職業の大変さと大切さ、学級の役割を知って責任をもって勉強していきたいと思った。特に、私は『関わり』が教員になる上でのキーワードになるのかなと思うようになった。子どもの様子をよく見て変化に気づいたり、信頼関係を築くなどの子どもと教員間の関わり、家庭の様子を知れたり、学校への不信感をなくすための保護者と学校・教員間の関わり、ほかにも、教員同士の関わりや、インクルーシブ教育を踏まえての子ども同士の関わり、たくさんの関わりがあり、それぞれに大切な役割があることを知った。学級に入る

	と担任の先生ひとりの個人戦に見えるが、実は「子どもたちの成長」という目標に向けての大きな団体戦なのだなと思った。
--	--

【表 2】OPP シートによる自身の変化の振り返りの例

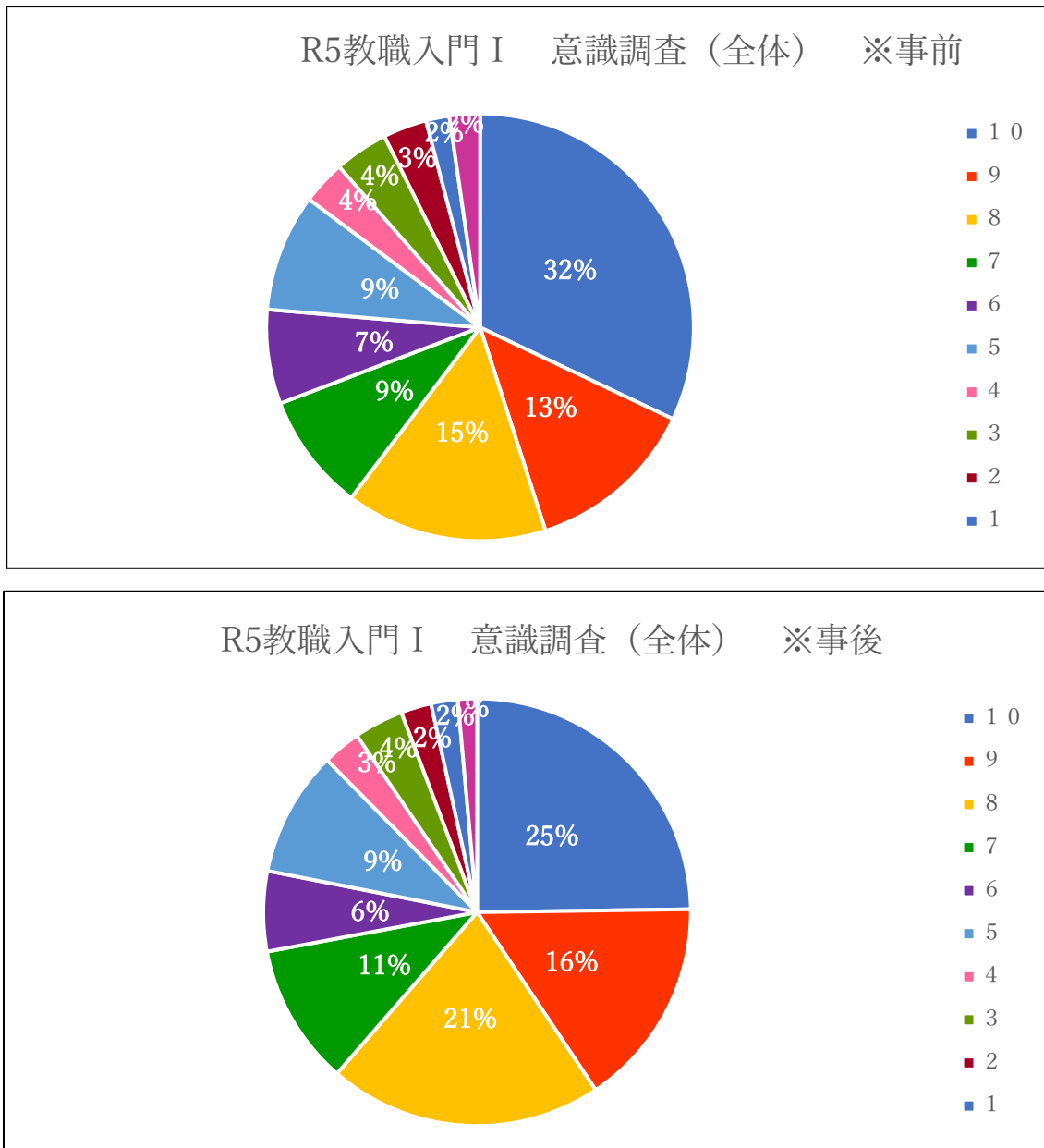
学生 A については、教職に対する印象がネガティブなものからポジティブなものに変容していることを捉えており、教職の魅力についての気づきを得ることが出来た。学生 B に関しては、教育の役割や意義について理解が増していることが伺える。学生 C に関しては、理解の深まりだけではなく、新たな課題意識をもつことが出来るようになった。このように、教職入門 I では教職の意義や役割について理解を深めるだけでなく、自身の問いを深めることによって学び続ける意識を醸成することができた。学生 D、E についても、学修前の教師の仕事は知識等を教えるという理解から、教育における子ども、他の教師、保護者・地域とのかかわりに気づき、教師の仕事についての理解を深めている。さらに自己の成長を感得したこと、教職への前向きな姿勢が読み取れる。

教職に関する意識調査について

「教職入門 I」の授業では、毎年、第 1 回と第 15 回の授業において、「教師になりたい気持ち」についての意識調査（「教職に関する意識調査」）を、全履修者を対象に行っている。「教師になりたい気持ち」を「とてもになりたい」を 10、「全くなりたくない」を 0 とし、10～0 の 11 段階で回答するものである。調査対象者は令和 5 年度 1 年生 395 名。質問項目は表 3 の通りである。グラフ 1 は問 4 における事前、事後の結果である。

設問番号	内容
1	あなたの学籍番号を記入してください。
2	あなたの名前を記入してください。
3	あなたの所属を選んでください。
4	あなたの教員（養護教諭、幼稚園教諭、保育士を含む）になりたい気持ちは、どのくらいですか？（「とてもになりたい」を 10 とし、「全く考えていない」を 0 とし、あなたの気持ちの度合いを数字で選択。）
5 事後調査のみ	教職入門 I の授業を履修して、教職への意識が変化したかについて振り返り、どのような変化があったか教えてください。（記述回答）
6	教職に対してあなたが今、疑問に思っていることや不安に感じていることがあれば教えてください。（記述回答）

【表 3】教職に関する意識調査



【図 1】教職に関する意識調査「問 4」事前・事後結果

調査結果の集計では、「教師になりたい気持ち」を S(10)、A(9～8)、B(7～6)、C(5～0)の 4 段階に類型化している。このうち、類型 S・A・B を「教師になりたい気持ち」が強いあるいはどちらかと言えば強い、類型 C を「教師になりたい気持ち」に迷いがある若しくはもてないと捉えている。令和 5 年度の調査では、S(10)、A(9～8)、B(7～6)を併せた割合が第 1 回の時点で 73%、第 15 回の時点で 79%であった。授業が終了した段階では教職への意欲がわずかながら上昇していることが分かった。

また、学生の中には教職入門Ⅰを受講した結果、比較的教職に就くことに対して否定的である C 群の回答から B 群以上の回答へと変化したものもいた。表 4 は事前調査で「4」、事後調査で「8」と答えた

回答理由である。

	回答	回答の理由
事前の回答	4	教員になってもいいが他の興味がある職業を見つけたらその職業に就きたいから。
事後の回答	8	入学当初は教師になる気はあまりなく、とりあえず教職免許をもっておこうというスタンスでした。他にやりたいことを見つけたらそれをやろうと思っていましたが、この教職入門の授業やほかの教育学部の授業を受けている今、教師という仕事に興味をもち、将来就きたい職業になりつつあるからです。

【表 4】回答の変化理由

この学生は本授業を通して教職という職業の理解を深めることで、興味・関心を高め、より明確に将来へのイメージをつかめるようになったことが考えられる。さらに本調査で特徴的であったのが、問 5（事後調査では問 6 にあたる）「教職に対してあなたが今、疑問に思っていることや不安に感じていることがあれば教えてください。（記述回答）」の回答の変化である。事前調査の中で多くを占めていたのが教職に対する仕事量や勤務時間に関するものであったのに対し、事後調査では回答の多くが「子どもとの接し方」や「コミュニケーションの取り方」、「学級経営の方法」「授業方法」など、教職に就いた後の具体的な姿勢や指導方法等へと変化していった。

このように、入学直後の 1 年生前期に教職入門Ⅰを実施することによって、冷静に実際の学校の様子について知るようになり、より具体的な教師像が描けるようになり、その結果、教職への意欲が高まる結果となったことが言えると考えられる。

②キャリア形成科目

廣瀬 悠

キャリア形成科目Ⅰ「教師基礎力養成演習」

キャリア形成科目Ⅰ「教師基礎力養成演習」とは、主に教育学部 3 年次の学生を対象とした授業であり、教師の仕事に対する強い情熱や教育の専門家としての確かな力量、総合的な人間力など、教員に求められる資質・能力について理解を深めることを目標としている。

実施体制は、実務家教員 6 名及び本学教職指導員等（元校長、教育委員会経験者）のグェスティーチャーによるオムニバス形式。授業内容については表 1 の通りである。

回	実施日	内容	備考
第 1 回	9 月 28 日	オリエンテーション (授業の概要と進め方)	実務家教員
第 2 回	10 月 5 日	学校教育全般の知識 (教師としての心得・教職教養・法規等)	実務家教員 + 教職指導員
第 3 回	10 月 12 日	実践的な指導力の向上、教育現場の現状と認識	実務家教員

	日	(子ども観・学校観の具体化)、教職への夢・希望	+ 教職指導員
第 4 回	10 月 19 日	学習指導要領のポイント	実務家教員 + 教職指導員
第 5 回	10 月 26 日	過去の振り返りや長所・短所、 将来の自分	実務家教員 + 教職指導員
第 6 回	11 月 2 日	求められる教員像、目指す教員像、 教員の一日	実務家教員 + 教職指導員
第 7 回	11 月 9 日	各自治体（埼玉県やさいたま市を中心に） の教育施策	実務家教員 + さいたま市教委、県教委
第 8 回	11 月 16 日	子どもにとっての授業、 教師にとっての授業とは	実務家教員
第 9 回	12 月 7 日	学級経営、生徒指導のポイント	実務家教員
第 10 回	12 月 14 日	教師としてのリーガルマインド	実務家教員
第 11 回	12 月 21 日	教員としての資質・能力① (協調性・指導性などの社会的能力等)	実務家教員 + 教職指導員
第 12 回	1 月 11 日	教員としての資質・能力② (表現力・実践力・教育観等)	実務家教員
第 13 回	1 月 18 日	教員としての資質・能力③ (志望動機・教職への意欲等)	実務家教員 + 教職指導員
第 14 回	1 月 25 日	教員としての資質・能力④ (知識・教養等)	実務家教員 + 教職指導員
第 15 回	2 月 1 日	授業全体の振り返りと自身の今後の心構え、最終レポート	実務家教員

【表 1】教師基礎力養成演習実施計画

第 7 回にはさいたま市教育委員会、埼玉県教育委員会指導主事による各自治体の教育施策についての授業を行った。表 2 において、本科目を通して学生自身が自らの変化について振り返ったものをいくつか掲載する。

学生 A	レポートで教員に求められる資質能力について改めて考えたことで、本講義の振り返りもできました。様々な相手に伝えることを想像し、表現力の大切さを学んだ回や、自己開示の大切さにふれた回を思い出しながら、もっと自身の人間性を磨いていきたいと思いました。
学生 B	教員に求められる資質・能力を改めて考え直してみて、自分は表現力が特に備わっていないと思った。教員は常に子供たちになにか伝え続ける。その中で、表現力が備わってなければ、言いたいことを伝えることができない。意思の疎通ができなければ誤解を生んでしまうこともある。子供たちに何事も分かりやすく伝えられるようになるために、表現力をつけていきたい

	い。
学生 C	実践的な演習が多く、教員になる際のイメージが湧いてきた。教員になる上で配慮しなければいけないことが多く、今から対策して行かなければならないと思う。

【表 2】教師基礎力養成演習の振り返りの例

学生 A、B、C 共に、教職に必要な具体的な力に関してより具体的なイメージをもち、現在の自分を見つめ直すことで、これから身に付けるべき力や課題となる点について見出すことができた。このように本科目では教師になるにあたって自身の今後の方向性を見出すことのできる内容であった。

キャリア形成科目Ⅱ・Ⅲ「教師力向上ケーススタディ演習Ⅰ・Ⅱ」

キャリア形成科目Ⅱ・Ⅲ「教師力向上ケーススタディ演習Ⅰ・Ⅱ」とは、主に教育学部 4 年次の学生を対象とした授業であり、学校での教育課題や今日的課題について、演習やグループワークを通じて考え判断し、教育現場において支障なく職務を遂行できる実践的な資質・能力を身に付け、実践できるようにすること、教員として職務を遂行できる意欲と能力を養うとともに、諸課題に対応できる実践力を身につけることを目標としている。

実施体制は、実務家教員 6 名によるオムニバス形式。授業内容については表 3・4 の通りである。

回	実施日	内容	備考
第 1 回	4 月 13 日	本講座の進め方（オリエンテーション）	実務家教員
第 2 回	4 月 20 日	資質・能力の育成①	実務家教員
第 3 回	4 月 27 日	資質・能力の育成②	実務家教員
第 4 回	5 月 11 日	豊かな心の育成①	実務家教員
第 5 回	5 月 18 日	豊かな心の育成②	実務家教員
第 6 回	5 月 25 日	教師の服務と教職員事故の防止及び倫理観の確立①	実務家教員
第 7 回	6 月 1 日	教師の服務と教職員事故の防止及び倫理観の確立②	実務家教員
第 8 回	6 月 8 日	社会の変化に対応した教育の推進①	実務家教員
第 9 回	6 月 15 日	社会の変化に対応した教育の推進②	実務家教員
第 10 回	6 月 22 日	特別支援教育・人権教育①	実務家教員
第 11 回	6 月 29 日	特別支援教育・人権教育②	実務家教員
第 12 回	7 月 6 日	家庭・地域との連携①	実務家教員

第 13 回	7 月 13 日	家庭・地域との連携②	実務家教員
第 14 回	7 月 20 日	これからの時代の教師に求められる資質・能力	実務家教員
第 15 回	7 月 27 日	まとめ及び評価について	実務家教員

【表 3】教師力向上ケーススタディ演習 I 実施計画

回	実施日	内容	備考
第 1 回	9 月 28 日	学校参観	研究発表等に参加
第 2 回	10 月 5 日	学校参観	
第 3 回	10 月 12 日	初めて教員になるあなたへ① (実はこんなことも！年度はじめの教員の仕事)	実務家教員
第 4 回	10 月 19 日	初めて教員になるあなたへ② (知らないと大変なことに！教員の服務と倫理)	実務家教員
第 5 回	10 月 26 日	担任としての学級開きはどうする？ (学級経営の基礎・基本)	実務家教員
第 6 回	11 月 2 日	毎日の授業準備と評価、どうしたらいい？ (学習指導の基礎・基本)	実務家教員
第 7 回	11 月 9 日	保護者との信頼関係、どうつくる？ (初めての保護者会・初任教員の悩みと課題)	実務家教員
第 8 回	11 月 16 日	特別な支援を要する児童生徒を受けもったらどうする？ (特別支援教育・生徒指導・教育相談の観点で)	実務家教員

【表 4】教師力向上ケーススタディ演習 I 実施計画

教師力向上ケーススタディ演習 I・II 共に、明確に教師を目指すものを対象に実践力をテーマに構成されている。特に後期に行われる教師力向上ケーススタディ II では卒業後、教育現場に出た時のことを想定して演習が行われた。表 5・6 において本科目を通して学生自身が自らの変化について振り返ったものをいくつか掲載する。

学生 D	<p>教師の資質・能力を問われた際に、いつもは「どのようなものか」ということは考えているが、それを具体策にまで落とし込むことはなかなかできていなかった。今日は、グループでの話し合いと全体での共有によって、自分の意見をどのような形で実践に繋げていくかを考えることができた。また、考え方のレポーターを増やすこともできた。</p> <p>また、講義の終盤に紹介された『おこでませんように』を読んで、子どもの行動や態度の裏にある気持ちにまで思いを巡らせることのできる教師になりたいと強く感じた。「子どもの気</p>
------	---

	持ちに寄り添う」と言葉にするのは簡単でも、実際に現場でそのような立ち居振る舞いができているかどうかを常に反省する教師でありたい。
学生 E	子どもにどう対応していくかに加えて、教師自身も学び、変わり続けていく必要があると感じる。さいたま市であったら、キャリアナビなどを活用し、自分にあった目標を立てたり、研修を受けたりし続けることが大切。 様々な事例について話し合う中で、自分一人では考えつかないものもあり、幅が広がるのが面白い。学び合うことは子どもにとっても大人にとっても大切だと感じる。

【表 5】教師力向上ケーススタディ演習Ⅰの振り返りの例

学生 F	実際に現場に出た際に役立つ情報や教師としてのスキルについてお話しただいてとてもためになる回でした。特に印象に残ったのは、児童を特段に褒めるまでいなくとも、日常の中にあるほほえましいエピソードを共有するだけでも保護者は非常に安心することや、特定の児童に対する合理的配慮はケースを見ながら他の保護者にも伝達することでむしろ協力が得やすいということです。こういった保護者との良好な関係性づくりの部分に関しては、授業や本を読むだけでは分からないところもあるので、非常にありがたかったです。
学生 G	学級開きについてなかなかビジョンが持てずに不安を覚えていましたが、今回の授業を受けて、どのような仕事があるのかやどのような心構えをもって子供と接していくのが望ましいかなどを知ることができ、少し安心したと同時に、学級開きが楽しみになりました。今からさまざまな先生の取り組みをみて、子供たちが学校に通うことを楽しみにしてくれるような工夫をしていきたいと思います。

【表 6】教師力向上ケーススタディ演習Ⅱの振り返りの例

学生の振り返りをみると、より実践的な視点で教育について見つめ直していることがわかる。本科目を通して、今まで学んできたことを基盤とし、実際に現場に出た際のことを想定しながら力をつけていくことができた。

5. 教育実習等の振り返り

清水 亮、堀田 香織

学生が自らの学習体験を振り返り、対象化し、言語化することで、教育実習等における実践をいっそう豊かなものにすることを目的として 2023 年度を試行期間として導入した。3 年生を主な対象として、前期教育実習を行った学生に対しては、6 月中旬から 7 月末頃、後期教育実習を行った学生に対しては、10 月中旬から 11 月末頃の、任意の日時に 1 コマ実施することとした。

具体的には、各課程・専修ごとに実習の振り返りを実施することを仕組み化した。自身の体験を語り、その達成と課題とを他者と共有し、検証しあう試みを、これまでより大きく多様な集団の中で行うことで、振り返りの広がり・深まりを促す試みである。振り返りの方法は各課程・専修の特質に鑑み、それぞれが自主的に取り組み方を決めている。ただ、本学部の教科に関する専修・分野では、小学校コース・中学

校コースの学生が3年次にはゼミを中心とした諸科目で関係を深めており、それぞれのコースの学生が副免許として別の学校種の免許取得を目指すことが多い。たとえば小学校コースの学生の主免許は小学校1種教諭免許であるが、中学校・高等学校の教科に係る免許を副免許として取得しようとするケースである。このような場合、コースを超えた振り返りの場は、多様な経験にふれ、検証を受けるにとどまらず、自身が取得しようとする学校種の教員免許に関わる情報を得る場として有効に機能しうることが期待される。

また、教育実習等の後に教職への意欲が低下してしまうことを回避するための、支援の機会になることも期待している。あわせて今後は、できる限り、他学年の学生へも良い影響が波及するような異学年交流の場とすることを目指す。また現職教職大学院生の参加を促して、教師の魅力発信につなげ、今後6年一貫の教員養成カリキュラムに位置付けることも検討していきたい。

① 社会講座における教育実習の振り返り

清水 亮

前期教育実習を行った学生27名と、社会講座教員担当者1名により振り返りを行った事例を紹介する。事前学修として3つの問いかけをgoogleフォームに記入させたのち、各々に研究授業の指導案を持参させ、振り返りに参加してもらった。3つの問いかけは、以下のとおりである。

1. 教育実習に行くにあたり、自分が一番大事にしようと思っていたことはなんですか？
2. 教育実習中に一番困ったこと／悩んだことはなんですか？(1)その時、どのような対応(行動)をしましたか？(2)その時の自分の対応(行動)を後から振り返って、もう少しこうすればよかったかもしれないと思うことはありますか？ ※研究授業のことでも、授業以外のことでも結構です。
3. 教育実習中に一番うれしかったこと／やりがいを感じたことはなんですか？(1)その時、どのような対応(行動)をしましたか？(2)その時の自分の対応(行動)を後から振り返って、もう少しこうすればさらによかったかもしれないと思うことはありますか？ ※研究授業のことでも、授業以外のことでも結構です。

「1」に関わる答えで最も多かったのは、児童・生徒および教職員とのコミュニケーションをきちんと取るという趣旨に関するものであった。その他に多かったのが、「学校現場の状況を細かく知ること」、こどもたちを前にした授業の実施、学校内での人間関係形成の構築を重視することであった。

「2」に関わる回答でもっとも多かったのは、授業構成、指導案作り、授業進行・発問授業といった、児童・生徒を前にした授業実践に関わる取り組みで課題を意識したものであった。これに次ぐのが、やはり児童・生徒との関係形成に関する課題認識であった。児童・生徒との信頼関係形成のため、どの程度までふみこんで話をすればいいのか、指示を聞いてもらえない場合の対応、叱ることへの逡巡、児童・生徒間トラブルの仲裁など多岐にわたった。

「3」に関わる回答でもっとも多かったのは、授業に対する達成であった。中でも多かったのは、自身の授業に対する児童・生徒の反応が良かったこと、児童・生徒と一体になった授業を実現できたと思えたことなど、授業構成のみの完成度だけでなく、児童・生徒の達成度上昇や、児童・生徒からの感謝を受けたこ

とを多く挙げていた回答がほとんどであった。次に多かったのが児童・生徒との関係が形成されたことへの実感と関わる回答である。「休み時間に話しかけられること」、「生徒に、ぜひ部活に来てほしいと誘われたこと」、「子どもたちと一緒に遊ぶことができたということ」、「心を開かない子どもが話しかけてくれるようになった時」などの回答を得られた。

これらの事前学修をふまえた上で、互いの授業研究についても検証しあうため、振り返り出席者には研究授業の指導案を持参させた。

その上で、振り返り当日（2023年7月7日）には以下の課題を提示し、実施してもらった（手続きのみに関わる指示は省略）。

- ・6人～7人で一組、4グループに分かれて下さい。小学校・中学校の実習実施者を混在させることを目指して下さい（多様な経験を共有するため）。
- ・振り返りの題目についての相互の体験を聞き、グループ内で討論してください。
→グループ内から代表者を出して全体で質疑応答しましょう。
（グループ内での各自の経験言語化・討論時間は1題25分、発表と質疑応答は1題16分
〈1グループ4分が目安。2題で50分+発表、質疑応答32分+a〉）。
- ・グループ内の代表者は、1人に定めず、題目に応じて変更してください。
- ・出席票を提出して振り返りを一区切りにし、web classにて、締切までに総括文を必ず作成・提出して下さい。

これらの取り組みを実施した後、「応用実習Ⅰ（主免許取得のための教育実習。清水註）の経験、および7月7日の振り返りでの話し合いをふまえて、自身の応用実習の達成点と課題とを再評価しなさい」という課題に回答する総括文（振り返りレポート、200字～500字）を提出させた。

振り返り授業、総括文からは、①児童・生徒との信頼関係形成が授業の達成度にも大きく関わることを学生自身が認識・実感している様子、②児童生徒の実態に接し、授業作りに苦慮しながらその内容を向上させようとする真摯さ、③小学校と中学校の実態の相違を、同級生との対話によって臨場感を持って知ることができたことを読み取ることができた。

今回の振り返りでは、参加者が活発に自身の経験を話し合い、他者の経験を摂取しようとする積極性を看取できた。これらの経験を教職への挑戦というかたちで活かして欲しいと切に願っている。

総括文（振り返りレポート）の例

////////////////////////////////////
私の応用実習での達成点は生徒との信頼関係を最終的に得ることができた点である。生徒との信頼関係を築くことによって、普段の生活だけではなく授業中も生徒からの挙手発言が積極的になったり、集中して学んでくれたりすることを担当の先生から教えていただいた。そこで、やりとり帳という生徒と先生の交換日記のようなものや、昼休みに一緒に遊ぶということを通して生徒とコミュニケーションをとり、研究授業で

は、生徒への発問をすると生徒全員が挙手をしてくれるようにすることができた。課題だと思ふ点は、信頼関係を得るためのコミュニケーションを取ることが遅くなったことだ。中学生という時期は色々なことに多感な時期であり、積極的にコミュニケーションをとってくる生徒は少ないと感じた。だからこそ、初めからもっと積極的にコミュニケーションをとっていくべきだと感じた。

/////////
まず達成点として、児童に対して友達ではなく教師として接することができたことがあげられる。他の人の話を聞く中で、なかなか怒ることが出来なかったり、友達になってしまうといった課題点をあげている人がみられた。しかし、私はそうならないために、授業では敬語をつかい場面を切りかえたり、問題行動があったときは本人を呼んで、怒るのではなく「なぜそのような行動をとったのか」「その行動のなにが問題だったのか」を個別に指導することをしていたので適切で良好な関係を築けたと考える。

課題点としては、授業で「主体的」な授業を求められたが、どこまで主体性を必要とするのかが曖昧に終わってしまった。また、子供たちから答えを引き出す「問い」も、最後まで難しかった。さらに、些細な子供たちの発言に目をくばって褒めることがあまりできなかったのも、経験による慣れない分すごく苦勞した点であった。そのことから、教師はただ授業をやるだけでなく、あくまでも子供たちのために授業をやらなければならない為、広い視野が必要になると感じた。

/////////
応用実習、そして振り返りを通して実践的でとても経験になる実習期間にすることができてとても満足であると感じた。実習期間では実際に現代の子どもたちと触れ合い、授業という学びの場を共にすることで実態に気づくことができ、将来教師になった際に頑張りたいことや目標などが明確に見つけることができた。また、社会専修で行った振り返りでは、自分とは異なる学校や中学校に行った友達の話を聞いて、自分では見つけられなかったポイントを知ることができ、とても勉強になった。特に私が衝撃を受けたのは、児童・生徒への関わり方の違いである。小学校は児童の方から話しかけてくれたり、一緒に遊んだりして距離を縮めていくのに対し、中学校では話を積極的にこちらからしたり、授業の活動で信頼関係を作っていたりするというのだ。この話を聞いて、やはり実際に経験し、その経験を共有してみて初めてわかったことであったので、良い発見ができたと感じた。

私は今回小学校の方に実習に行ったが、来年は副免許取得のために中学校に実習に行くので、今回聞いた話を参考に中学校でも頑張りたいと思う。

/////////
私が実習で達成できた点は子どもたちと最終的に距離を縮められたことである。振り返りでの話し合いでは、生徒たちと距離が近すぎたが故に接し方に悩んだという人も多かった。しかし、私はむしろクラスや学年に馴染めないことに苦しむ期間が長かった。そのため、実習後半からは特に生徒たちの興味の方向を意識しつつ、とにかく話しかけることを心がけた。その甲斐もあり、最終的には子どもたちと心を通わし、コミュニケーションをたくさんとることができた。これからも今回学べた自分から粘り強く周りに働きかけを行う姿勢を忘れずにいたい。

また、至らなかった点としては私の力量不足が挙げられる。振り返りの際に他の受講生からも同様の反省が複数挙げられたが、生徒自身が考え探究する授業を目指したものの結局自分が喋りすぎてしまうことが

何度もあった。これは、そもそも授業の構成が上手くできていないものもあるだろうが、経験不足による不安によるところも大きい。しかし、講義型ではなく双方向的で子どもたちが生き活きと参加できる授業を作れるようになるために、例えまた失敗をしたとしても諦めずにこの試みは続けていきたいと思う。

////////////////////////////////////

② 心理・教育実践学専修心理系における教育実習の振り返り

萩生田 伸子、中井 大介、堀田 香織

後期教育実習を行った学生 7 名と、心理系教員 3 名により振り返りを行った事例を紹介する。

3 つの問いかけから構成されるワークシートに記入させたのち、各々が発表し、感想を述べあう形で振り返りを行った。

1. 教育実習に行くにあたり、自分が一番大事にしようと思っていたことは何ですか？
2. 教育実習中に一番困ったこと／悩んだことは何ですか？
研究授業のことも、授業以外のことも結構です。
 - (1) その時、どのような対応（行動）をしましたか？
 - (2) その時の自分の対応（行動）を後から振り返って、もう少しこうすればよかったかもしれないと思うことはありますか？
3. 教育実習中に一番うれしかったこと／やりがいを感じたことはなんですか？
 - (1) その時、どのような対応（行動）をしましたか？
 - (2) その時の自分の対応（行動）を後から振り返って、もう少しこうすればさらに良かったかもしれないと思うことはありますか？

「1 教育実習に行くにあたり、自分が一番大事にしようと思っていたことは何ですか？」という問いかけに対しては、「自分なりの授業観を形成すること」、「授業の組み立て方を知って今後に生かす」といった授業に関すること、「児童一人一人と信頼関係を作ること」、「教師として児童と適切な距離を保つこと」といった子供との関係性構築に関することが語られた。そのほかに、「教員になれるかどうか考えること」といった回答もあった。

「2 教育実習中に一番困ったこと／悩んだこと」としては、授業については「指導案をつくることが大変だった」といった回答、子供との関係性については「子ども同士のトラブルが発覚して介入する際に困った」「叱ることと言いつ分を聴くことのバランスのとり方が難しかった」といった意見があり、叱ることがうまくできなかった、もっと注意の仕方を学びたい、といった声が多かった。

「3 教育実習中に一番うれしかったこと／やりがいを感じたこと」としては、「授業が楽しかったと言われたこと」「研究授業がそれまでで一番うまくできたこと」などが挙げられた。

これらの振り返りを通して、お互いに困ったことうれしかったことを共有しながら、同じように困った体験をした人があることを知ることで、諦めてしまいがちな気持ちを立て直す機会になっていればよいと願っている。さ

らに、お互いに課題として、これからはこうしていこうという方向性を見出したことなどが得られた点である。

今後、教職大学院生や 4 年生など上級生をも巻き込みながら、教師を志す学生集団をつくっていくことができればと願っている。

応用実習振り返りレポート例

////////////////////////////////////

1. 教育実習に行くにあたり、自分が一番大事にしようと思っていたことはなんですか？

自ら積極的に動いて、沢山質問することを大事にした。児童に対しては、積極的に色々な児童に話しかけたり一緒に遊んだりした。また、教員に対しては自分に出来る仕事はないかを尋ねながら、プリントの配布や行事の準備などのサポートをした。そして、なるべく沢山の質問をするように心がけた。先生もお忙しくなかなか直接質問するタイミングがなかったため、付箋やメモ帳を活用してやり取りを行った。

2. 教育実習中に一番困ったこと／悩んだことはなんですか？

※研究授業の事でも、授業以外の事でも結構です。

算数の「かたちあそび」の授業で、児童がお菓子の箱などで作ったものについて、ロイロノートに工夫した点や感想を記入する活動を取り入れてみたところ、「何を書けばいいかわからない」という児童が多かったこと。また、ロイロノートをクラスで共有しながらその後の発表や説明に移ったため、ほとんどの児童が友達の発表や先生の説明を集中して聞けなかったこと。授業を見ていただいた主幹教諭からも、「子どもたちがタブレットに夢中であまり話を聞けていなかったね」とコメントを頂いた。

(1)その時、どのような対応(行動)をしましたか？

ロイロノートの記入については、児童が「くふう」という言葉の意味を理解していなかったため、「がんばったところ」「みてほしいところ」というように言葉を変えて説明した。

話を聞くことに関しては、少しでも私の方に興味を向けて貰えるように、「どんな風に積んで？」、「大きさはどうなってる？」、「何に見える？」のような発問をしたり、先生の方をきちんと向けている児童に対して褒めたりした。また、それまでの担当教諭の指導を参考に、声をお腹から出すことを意識し、児童の発話への反応も大き化した。

(2)その時の自分の対応（行動）を後から振り返って、もう少しこうすればよかったかもしれないと思うことはありますか？

ノートの記入や友達のノートを見る時間の後に一度 PC をしまったり画面をロックしたりして、発表や説明の時間に PC を触らないようにするべきだった。この単元はお菓子の箱や PC など勉強以外の誘惑が多かった。特に小学 1 年生の場合は、きちんと話を聞いて欲しい時に、それが出来る環境設定を教員側が整えることが大切であると感じた。

3. 教育実習中に一番うれしかったこと／やりがいを感じたことはなんですか？

国語の「しらせたいな、見せたいな」の授業で、一単元全ての授業を任せてもらい、クラスの児童 1 名(多動、自閉傾向あり)を除き、全員が文章を書いて提出することができたこと。単元の説明をして題材を決めるところから始まり、その絵を描いて特徴を書き込む段階、短い分を書く段階、実際に文章を書く段階と、全 10 時間構成の単元をやり切ることができた。子どもの頑張りや成長を感じるとともに、私自身も Canva でスライドを作成したりワークシートを作ったりと授業準備を工夫したことで、とてもやりがいを感じた。

(1)その時、どのような対応（行動）をしましたか？

後半までなかなか題材が決まらず作業できていなかった児童に対して、先生のアドバイスを参考に、その子が興味のある題材(ガンダム)にしたり、1 文でも書ければ OK のように達成目標を下げたりした。もともとは学校にあるものを題材にする予定だったが、単元の目標は文章を書くことであったため、内容を少し変えた。

スライド作成では、これまで PowerPoint しか使ったことがなかったが、今回の実習で Canva というソフトを教えて初めて使ってみた。かわいらしいイラストやフォントが多く、全体的に低学年にぴったりのスライドになるためとても良かった。Canva はその後の研究授業のスライドにも活用し、今後教員になってからもぜひ活用していきたいと思う。

ワークシートでは、やったところに色を塗れる「がんばりかあど」というものを指導教員が算数で作っていたのを参考に、「ぶんしょうチェックシート」を作った。低学年は色塗りが好きで、やったことを視覚的に把握できるというメリットもあるため、チェックしたら色を塗れるシートは効果的だったと思う。

(2) その時の自分の対応（行動）を後から振り返って、もう少しこうすればさらによかったかもしれないと思うことはありますか？

文章を書くまでに絵を書いたり短い文を作ったりと様々な段階があったが、題材が決まらない児童はその時間ほとんど作業出来ていなかった。もっと早い段階で柔軟に(1)のような対応ができていればその時間を有効に使えたと思う。

////////////////////////////////////

Ⅲ 本取組による成果（質的成果・量的成果）と今後の課題

1. 質的成果と課題

清水 亮

本研究の質的成果は、これらの取り組み全体ともいえるが、特記できるものを要約しておく。

- ① 教師になりたいという強い志を持つ高校生を迎えるために、入学前から教師の仕事内容とその魅力を発信した。具体的には高校生オンライン連続講座、および高校生のための教員志望者説明会への参加を通して行われたものであり、高校生にとってはもちろん、参加学生にとっても教師の魅力の再確認の場となった。
- ② 教育実習だけではなく、学校体験・参観活動を通して、子どもと触れ合う体験を持たせることにより教師という仕事の魅力を早い時期に学生に伝えた。具体的には 1 年生対象の学校参観体験、2 年生以上対象の学校フィールド・スタディを通して行われた。
- ③ 埼玉県教育委員会・さいたま市教育委員会をはじめとした各自治体との連携による教職支援を通じた教師の魅力発信を行った。

これらの内容は、Ⅱの②、④、⑥、⑦、⑨で述べているが、今年度は教員採用試験の前倒し傾向、教員志望者の減少という状況をふまえて、各自治体との連携はより緊密になり、取り組みの質を向上させることになった。特に 10 月に行われた埼玉県の教員採用説明会では、県教育長による講話をいただくことができた。これらの取り組みによって、教職支援に関する大学と自治体との連携状況、教員採用の現状、教員という職業の魅力を、学生に強く伝える効果を持ったことが見通される。

④ 教職支援への教職大学院生の参加

本学教育学研究科に教職大学院が設置されたのが平成 28 年度であり、今年度は 7 年目にあたる。この間、教育学研究科の教職大学院への一本化が令和 3 年度から実施され、今年度はその 3 年目にもあたる。

このように、教職大学院生の受け入れと教育とが充実した 2023 年度という段階で、教職大学院生を都道府県別指導（Ⅱの⑧）などで、ファシリテーターとして起用することができた。今後も、学部・大学院の人的・知的往還による教職支援・教員という職業の魅力発信をより充実させていきたい。

一方、連携大学における教職支援・教員という職業の魅力発信において、本学教職大学院生をファシリテーター等として起用する試みは課題として残された。この課題については、連携大学のカリキュラム等と本学部の状況等とを照合・精査し、解決の道をさがしていきたい。

2. 量的指標に基づく成果と今後の課題

堀田 香織、廣瀬 悠

本学では、全学的に進路調査を行っており、各年度の卒業生について、卒業後 5 月末、及び 9 月末に、集計して、文科省調査資料としている。これとは別に、教育学部では、教職支援委員会によって、各学年 4 月に教職志望について「進路希望調査」を実施している（P13、別添資料 2 P35）。また、1 年生対象に前期に行われる必修授業「教職入門Ⅰ」においても、「教職に関する意識調査」（P18～20）を行っている。さらに、4 年生対象に後期に行われる必修授業「教職実践演習」において、「教

職に関する意識調査」を実施している（別添資料 3、P 36 参照）。

全学で行われる進路調査は来年度 5 月末、および 9 月末まで継続して行われ、教育学部の「進路希望調査」および「教職に関する意識調査」は 4 月実施であるが、4 年生対象の教職実践演習は後期の終盤に行われるので、本取組の成果指標となりえると考えて、報告する。

「教職に関する意識調査」は記名式により、授業内で行われるものであり、回答率は受講生のほぼ 100%である。令和 3 年度の回答者は 366 名、令和 4 年度は調査項目を変更し、376 名が回答している。令和 5 年度も令和 4 年度の調査項目を維持し、回答者は 281 名であった。この中で教員採用試験（私立学校等や幼稚園・保育所等を含む）の受験結果と進路（臨採を含む）について尋ねている。下記の図 1 ～ 4 はその結果を示している。

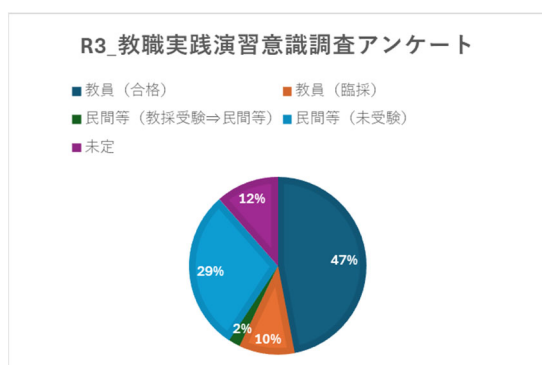


図 1 令和 3 年度

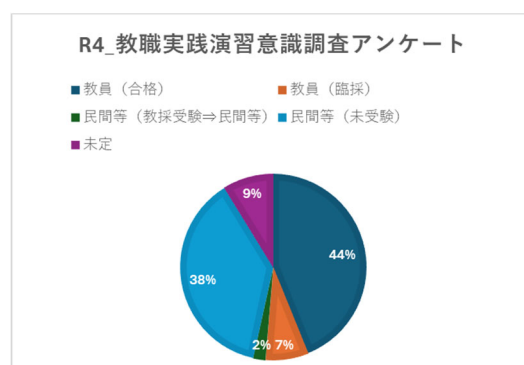


図 2 令和 4 年度

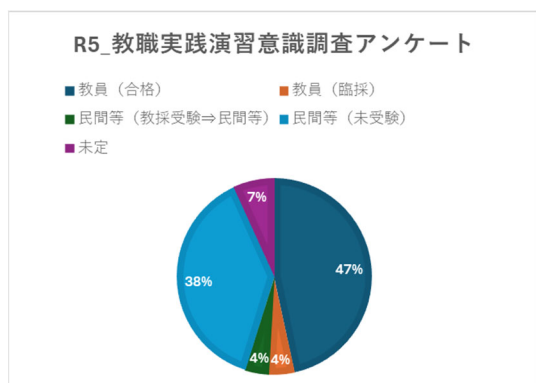


図 3 令和 5 年度

この中で、教員及び保育士に進路を決定した学生（臨採を含む）、および教師を志して教員採用試験を受験したものの不合格となり民間就職にかじを切った学生の、全体に占める割合は平成 3 年度から平成 5 年度にかけて、以下の様に推移している（図 4）。ここでは、教員採用不合格者で民間就職となった学生も、教師を志したという点で本取組の成果に関連すると考えて含めている。

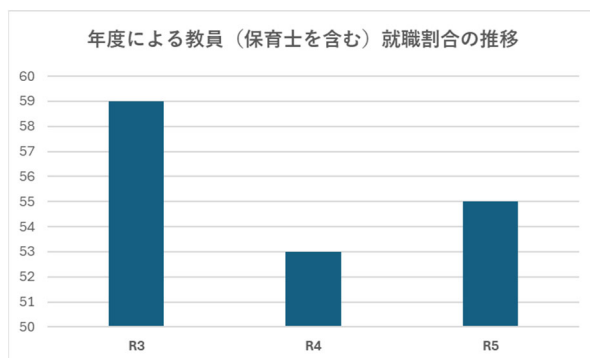


図4 令和3年度から5年度までの推移

年度によって、当日欠席者もあり、4年生全員が対象となっているわけではないので、単純に比較できないが、令和3年度から令和4年度に大きく落ち込んだのに対して、令和5年度は持ち直している。この結果は本取組で教員の魅力を発信した効果であると推測できる。もちろん本取組だけによるものと断言はできないが、今後こうした教員の魅力発信の取組をさらに強化していく中で、教員就職率の向上に努めたい。そして、先に挙げた教職志望調査や教員就職率向上にどのようにつながるか、分析し、取組の改善や追加を検討していきたい。

別添資料 1

教職支援スケジュール						
日付	名称	対象	管轄	県教委	市教委	備考
2023.4.6	第1回教職支援セミナー斉指導（4年生）	4、院	教職支援委員会		○（現職教員メッセージ）	オンライン
2023.4.7	第1回教職支援セミナー斉指導（3年生）	3	教職支援委員会			オンライン
2023.4.11	埼玉県さいたま市教員採用選考試験説明会	4、院	教職支援委員会	○（採用課）	○（教職員人事課、高校教育課）	対面
2023.4.12	学校フィールド・スタディⅠ・Ⅱ・Ⅲ受講説明会（通年）		教職支援委員会		○（指導1課：活動紹介）	オンライン
2023.4.17	彩の国かがやき教師塾ベーシックコース説明会	2	教職支援委員会	○（小中学校人事課）		オンライン・4.18追加日
2023.4.25	学校フィールド・スタディⅠ・Ⅱ・Ⅲ事前授業（通年）		教職支援委員会			対面・4.27追加日
2023.4.28	さいたま市教師塾「夢」講座説明会	(2)、3、院	教職支援委員会		○（教育研究所）	対面・R6より2年生開始
2023.4.27	大学推薦合格者一斉指導	3、4、院	教職支援委員会			対面
2023.5.10	第2回教職支援セミナー斉指導（4年生）	4、院	教職支援委員会			オンライン・5.15追加日
2023.6.2	第1回教職支援セミナー斉指導（2年生）	2	教職支援委員会		○（現職教員メッセージ）	オンライン・6.9追加日
2023.6.14	彩の国かがやき教師塾マスターコース説明会	3	教職支援委員会	○（小中学校人事課）		オンライン
2025.6.16	教員採用選考試験激励会	4、院	教職支援委員会			オンライン・6.22追加日
2023.6.30	第2回教職支援セミナー斉指導（3年生）	3、院	教職支援委員会		○（現職教員メッセージ）	オンライン
2023.7.14	教員採用選考試験（2次試験）直前指導	4、院	教職支援委員会			オンライン
2023.9.26	3・4年生対象 一斉指導	3、4	教職支援委員会			オンライン
2023.9.27	2年生対象 一斉指導	2	教職支援委員会			オンライン・2年生全員
2023.9.27	学校フィールドスタディⅠ・Ⅱ・Ⅲ受講説明会（後期）	2、3、4	教職支援委員会		○（指導1課：活動紹介）	オンライン
2023.10.5	学校フィールド・スタディⅠ・Ⅱ・Ⅲ事前授業（後期）		教職支援委員会			対面・10.10追加日
2023.10.20	さいたま市臨時的任用教員希望者説明会	1～4、院	教職支援委員会		○（教職員人事課）	対面
2023.10.24	埼玉県臨任教員登録説明会	4、院	教職支援委員会	○（独立学校人事課、各教育事務所）		対面
2023.10.27	学校フィールドスタディⅠ・Ⅱ・Ⅲ振り返り授業①（通年）	2、3、4	教職支援委員会			対面・11.2追加日
2023.10.30	さいたま市教員採用選考試験説明会	2、3、院1	教職支援委員会		○（教職員人事課）	対面
2023.11.1	埼玉県教員採用説明会	1～4、院	教職支援委員会	○（採用課）		対面・1年生参加可
2023.11.10	1年生対象 一斉指導	1	教職支援委員会		○（生涯学習振興課：チャレンジスクール説明）	オンライン
2023.12.4	都道府県別指導（埼玉県）	3、院	教職支援委員会			対面
2023.12.5	都道府県別指導（さいたま市）	3、院	教職支援委員会			対面
2023.12.6	都道府県別指導（東京都小・その他）	3、院	教職支援委員会			対面
2023.12.7	学校フィールドスタディⅠ・Ⅱ・Ⅲ振り返り授業①（後期）	2、3、4	教職支援委員会			対面・12.12追加日
2023.12.13	さいたま市現職教員と埼玉大学生との交流会	2、3、4	教職支援委員会		○（現職教員）	オンライン
2024.1.10	学校フィールドスタディⅠ・Ⅱ・Ⅲ振り返り授業②（通年・後期）	2、3、4	教職支援委員会			対面・1.12追加日
2024.1.26	彩の国かがやき教師塾ベーシックコース説明会	1	教職支援委員会	○（小中学校人事課）		オンライン
2024.2.8	3年生対象 一斉指導	3	教職支援委員会			オンライン
2022.3.28	第2回さいたま市現職教員と埼玉大学生との交流会	2、3、4	教職支援委員会			オンライン（予定）

別添資料 2

進路希望調査による集計推移【2019-2023年度】 2023.06.08現在

2019年度：進路カルテ 2020年度：googleアンケート 2021・2022年度：WebClassアンケート 2023年度：WebClassアンケート(設問を修正した箇所を太字で示す)

注1 進路希望は複数選択可

注2 2022年度以前 「校種等」は複数選択可

注3 2021・2022年度 「進学」=「教職大学院に進学」

注4 2022年度 【C】教職志望者数 = 【B】調査人数 - 民間企業・公務員・進学のみを回答した()内の人数

注5 2023年度 【C】教職志望者数 = 【B】調査人数 - その他・進学・未定のみを回答した()内の人数

表1 昨年度卒業生

入学 年度	調査 年度	学年	【A】 所属 人数	未提出 者数	【B】 調査 人数	教 職														民間 企業	公務 員	進学	未定 (その他 含む)	
						【C】 教職 志望者数	【C/A】 教職志望者数÷ 所属人数の割合	【C/B】 教職志望者数÷ 調査人数の割合	受検する自治体															校種等
									埼玉県	さいたま市	実家のある 自治体	その他	幼	保	小	中	高	特支	養護					
2019	2019	1	389	0	389	343	88%	88%	139	80	157	19	26	18	191	178	96	15	17	80	106	23	6	
	2020	2	388	19	369	309	80%	84%	137	125	135	25	18	20	155	133	82	15	20	175	100	40(0)	15	
	2021	3	387	57	330	246	64%	75%	103	90	103	42	15	15	129	78	47	19	20	147	27	—	—	
	2022	4	386	6	380	220	56%	58%	71	69	78	18	6	17	114	58	28	9	19	188(149)	15(1)	—	—	

表2 現4年生

入学 年度	調査 年度	学年	【A】 所属 人数	未提出 者数	【B】 調査 人数	教 職														民間 企業	公務 員	進学	未定 (その他 含む)
						【C】 教職 志望者数	【C/A】 教職志望者数÷ 所属人数の割合	【C/B】 教職志望者数÷ 調査人数の割合	受検する自治体				校種等										
									埼玉県	さいたま市	実家のある 自治体	その他	幼	保	小	中	高	特支	養護				
2020	2020	1	391	71	320	284	73%	89%	168	84	134	39	25	21	156	141	96	14	15	123	102	58	4
	2021	2	391	59	332	277	71%	83%	114	94	144	48	20	18	160	122	78	18	16	169	45	—	—
	2022	3	385	21	364	262	68%	72%	104	98	122	35	21	19	142	110	72	17	19	202(102)	20(0)	—	—

表3 現3年生

入学 年度	調査 年度	学年	【A】 所属 人数	未提出 者数	【B】 調査 人数	教 職														民間 企業	公務 員	進学 (その他 含む)	未定 (その他 含む)
						【C】 教職 志望者数	【C/A】 教職志望者数÷ 所属人数の割合	【C/B】 教職志望者数÷ 調査人数の割合	受検する自治体				校種等										
									埼玉県	さいたま市	実家のある 自治体	その他	幼	保	小	中	高	特支	養護				
2021	2021	1	387	74	313	283	73%	90%	128	85	151	48	23	19	174	155	103	16	19	103	34	—	
	2022	2	387	11	376	310	80%	82%	148	122	169	45	22	18	176	170	105	17	23	166(66)	31(0)	—	
入学 年度	調査 年度	学年	【A】 所属 人数	未提出 者数	【B】 調査 人数	教 職														その他	進学 (教職院 以外)	未定	
						【C】 教職 志望者数	【C/A】 教職志望者数÷ 所属人数の割合	【C/B】 教職志望者数÷ 調査人数の割合	第1希望の自治体				第1希望の校種										
									埼玉県	さいたま市	その他	未定	幼	保	小	中	高	特支	養護				
2021	2023	3	379	18	361	268	71%	74%	82	63	81	68	9	8	132	66	43	10	14	137(64)	16(3)	39(26)	

表4 現2年生

入学 年度	調査 年度	学年	【A】 所属 人数	未提出 者数	【B】 調査 人数	教 職														民間 企業	公務 員	進学	未定 (その他)
						【C】 教職 志望者数	【C/A】 教職志望者数÷ 所属人数の割合	【C/B】 教職志望者数÷ 調査人数の割合	受検する自治体				校種等										
									埼玉県	さいたま市	実家のある 自治体	その他	幼	保	小	中	高	特支	養護				
2022	2022	1	395	0	395	367	93%	93%	165	75	173	42	34	21	219	205	132	22	20	115 (28)	34(0)	—	

入学 年度	調査 年度	学年	【A】 所属 人数	未提出 者数	【B】 調査 人数	教 職														その他	進学 (教職院 以外)	未定
						【C】 教職 志望者数	【C/A】 教職志望者数÷ 所属人数の割合	【C/B】 教職志望者数÷ 調査人数の割合	第1希望の自治体				第1希望の校種									
									埼玉県	さいたま市	その他	未定	幼	保	小	中	高	特支	養護			
2022	2023	2	392	2	390	326	83%	84%	105	55	88	102	7	12	152	83	52	8	17	138(29)	20(5)	49(30)

表5 現1年生

入学 年度	調査 年度	学年	【A】 所属 人数	未提出 者数	【B】 調査 人数	教 職																その他	進学 (就職先 以外)	未定
						【C】 教職 志望者数	【C/A】 教職志望者数÷ 所属人数の割合	【C/B】 教職志望者数÷ 調査人数の割合	第1希望の自治体					第1希望の校種										
									埼玉県	さいたま市	その他	未定	幼	保	小	中	高	特支	養護					
2023	2023	1	395	7	388	329	83%	85%	103	35	118	93	7	11	132	82	76	8	18	102(34)	11(4)	38(21)		

別添資料 3

令和3年度教職に関する意識調査項目

- 5-1 教員採用選考の受験結果を記入してください。(教員採用選考とは自治体が行うものだけでなく、私立学校等や幼稚園・保育所等を含む)
- 5-2 上記の回答で「合格している」と回答した人(※幼稚園・保育所等を含む)は採用自治体等を記入してください。(例1:埼玉県(中学校国語)、例2:東京都の私立学校(高校数学))なお、教職大学院等進学のため、名簿登載期間を延長している人も記入してください。)(例3:埼玉県(中学校国語)→名簿登載猶予2年間申請)該当しない人は未記入で可
- 6-1 来年度4月にはどのような進路に進む予定ですか。(教諭は臨時的任用・非常勤講師等の任用を含む)
- 6-2 上記の回答で「教員(保育士)以外の職業」と回答した方は、具体的に記入してください。(該当しない人は未記入で可)
- 6-3 教員(保育士を含む)にならない人は、差し支えなければその理由を具体的に記入してください。(教職につく予定の人は未記入で可)
- 7 最後に教育学部での学修を振り返って思うところがあれば、自由に記入してください。(特記することがなければ未記入で可)

R4および5年度教職に関する意識調査項目

- 1-1 本学部への入学を希望した一番の動機(理由)は何ですか。
- 1-2 上記の質問で「その他」と回答した場合、具体的な理由を記入してください。(該当しない時は未記入で可)
- 2-1 入学当初「大学卒業後の将来の希望」は何でしたか。
- 2-2 上記の質問で「教員(保育士を含む)以外の職業」を選んだ場合、具体的に入学当時の「大学卒業後の将来の希望」を記入してください。
- 3-1 1年入学時の教員になり 3-4 3年の時に行った教育実習を終えて、教員になりたいという気持ちに変化がありましたか。たいという気持ちは、どの段階でしたか。1年入学時を振り返り、「とてもになりたい」を10、「まったくなりたくない」を0として11段階から選んでください。
- 3-2 2年進級時の教員になりたいという気持ちは、どの段階でしたか。2年進級時を振り返り、「とてもになりたい」を10、「まったくなりたくない」を0として11段階から選んでください。
- 3-3 3年進級時の教員になりたいという気持ちは、どの段階でしたか。3年進級時を振り返り、「とてもになりたい」を10、「まったくなりたくない」を0として11段階から選んでください。
- 複数の校種の実習をした場合は総合して回答してください。
- 3-5 上記の回答の理由を具体的に記入してください。(校種と出来事を具体的に。変化がなかった場合も、その理由を記入すること。)
- 3-6 4年進級時の教員になりたいという気持ちは、どの段階でしたか。4年進級時を振り返り、「とてもになりたい」を10、「まったくなりたくない」を0として11段階から選んでください。
- 3-7 4年の時に行った教育実習を終えて、教員になりたいという気持ちに変化がありましたか。複数の校種の実習をした場合は総合して回答してください。
- 3-8 上記の回答の理由を具体的に記入してください。(校種と出来事を具体的に。変化がなかった場合も、その理由を記入すること。)
- 3-9 現在の教員になりたいという気持ちは、どの段階ですか。「とてもになりたい」を10、「まったくなりたくない」を0として11段階から選んでください。(教職に就く予定ではない人も教職への思いを回答してください。)
- 4-1 現時点での卒業後の進路を選んでください。(教員とは保育士を含むものとする)
- 4-2 校種を選択してください。
- 4-3 自治体を教えてください。(臨任等の方は登録した自治体)
- 4-3 教員(保育士含む)になることを決意した大きなきっかけ(動機)について、具体的に教えてください。
- 4-2 職業を教えてください。
- 4-3 教員(保育士含む)以外の職業に就くことを決意した大きなきっかけ(動機)について、具体的に教えてください。
- 4-2 職業を教えてください。
- 4-3 教員(保育士含む)以外の職業に就くことを決意した大きなきっかけ(動機)について、具体的に教えてください。
- 4-2 差し支えない範囲で、具体的な進路選択をしていない理由を教えてください。
- 5-1 大学院や教職大学院へ進学するか教えてください。
- 5-2 進学する理由を教えてください。
- 6 最後に、来年度入学してくる新入生へ、進路に関するアドバイス(学修面、生活面)をお願いします。

執筆者一覧

教育学部長 堀田 香織

教育学部副学部長 小林 聡

教職支援委員長 清水 亮

教育学部附属実践センター 河野 裕一

廣瀬 悠

芸術講座 音楽分野 森 薫

心理・教育実践学講座 萩生田 伸子

中井 大介

.....

2024 年 3 月 8 日発行

令和 5 年度 教師の養成・採用・研修の一体的改革推進事業

教師不足をはじめとした教師の人材確保に関する近年の課題への対応～「教師の魅力」発信の
取組支援

教育委員会と大学協働による「職業としての教師の魅力」発信～埼玉県における取組から～
成果報告書

編集兼発行者 埼玉大学教育学部

.....